



# 2025年12月期 決算説明会

2026年3月12日  
市光工業株式会社

VISION IN MOTION



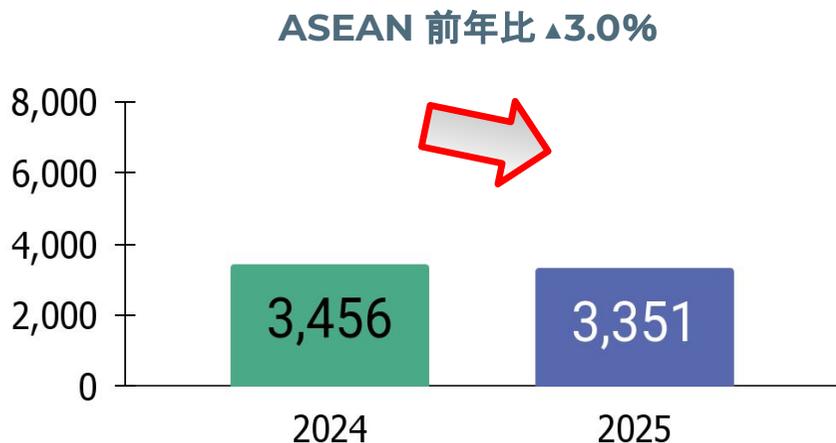
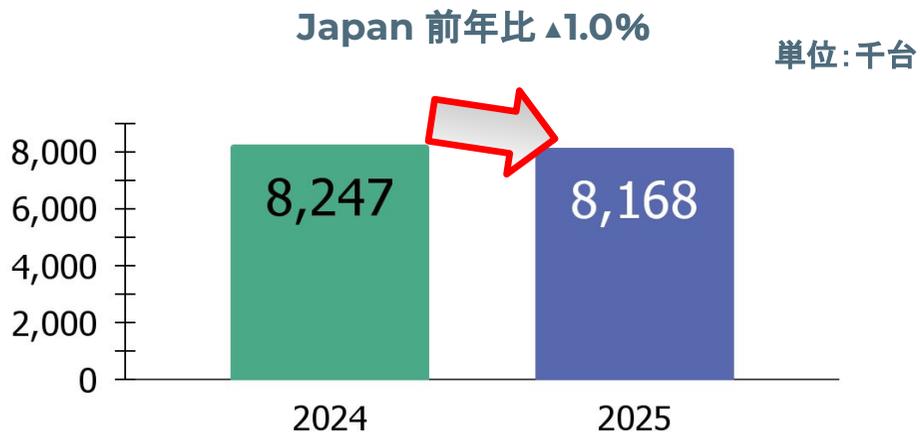
# 目次

- ① 2025年12月期決算概要(2025年1月~12月)
- ② 2026年12月期業績見通し(2026年1月~12月)
- ③ 持続的な企業価値の向上に向けて
- ④ PBRに関して

# 01 2025年12月期決算概要 (2025年1月～12月)

# 売上高とマーケット生産台数（前年同期対比）

マーケット生産台数(出典マークラインズ)



2025年度売上高 (PIAA除く) 対マーケット生産台数

| 2025 vs 2024 | 当社 売上高<br>(金型売上、為替<br>影響除く) | マーケット<br>生産台数<br>増加率 | 売上高対<br>マーケット生産台数 |
|--------------|-----------------------------|----------------------|-------------------|
| <b>Total</b> | <b>▲7.1%</b>                | <b>▲1.6%</b>         | <b>▲5.5ポイント</b>   |
| <b>Japan</b> | <b>▲6.6%</b>                | <b>▲1.0%</b>         | <b>▲5.6ポイント</b>   |
| <b>ASEAN</b> | <b>▲8.1%</b>                | <b>▲3.0%</b>         | <b>▲5.1ポイント</b>   |

\*ASEAN: Malaysia, Indonesia, Thailand

金型を除く売上高は市場生産量に対して **5.5ポイントマイナス**:

- 日本国内の売上は、特定の逆風要因(顧客事業再構築および立ち上げ遅延)により、生産台数比 **5.6ポイントマイナス**
- アセアンの売上は、インドネシア市場の低迷や C-OEMの市場参入加速により、生産台数比 **5.1ポイントマイナス**

# 2025年12月期 連結業績概要(対前年比較)

- ◆ 売上高は、2024年の子会社PIAA(売上高42億円)の売却、一部自動車メーカーの減産 による影響により減収
- ◆ 営業利益は、PIAA売却による減益を、インフレの価格転嫁促進、新製品立上げに伴う金型収益、損益分岐点低減策およびその他生産性の向上 により補い増益

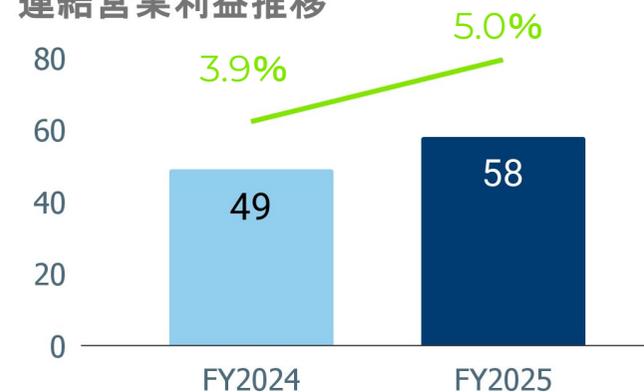
単位:億円/四捨五入

|                 | FY2024同一期間<br>(2024年1~12月) | FY2025<br>(2025年1~12月) | 増減額 |        | 増減率     |
|-----------------|----------------------------|------------------------|-----|--------|---------|
| 売上高             | 1,255                      | 1,171                  | ①   | ▲85    | ▲6.7%   |
| 営業利益            | 49                         | 58                     | ②   | 9      | 19.1%   |
| 営業利益率           | 3.9%                       | 5.0%                   | ②/① | ▲11.0% | 1.1ポイント |
| 経常利益            | 65                         | 76                     |     | 10     | 16.1%   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 45                         | 62                     |     | 17     | 38.8%   |

連結売上高推移



連結営業利益推移



## 2025年12月期 連結業績概要(対予想比較)

- ◆ 売上高は、アセアン市場での生産減に加え、一部自動車メーカーによる減産影響、新型モデルの投入の遅れにより未達
  - ◆ 営業利益は、業務効率化・合理化、適切なインフレ対策、顧客による数量補償等で予想比増益
- 経常利益と当期純利益は、中国合弁会社の持分法による投資利益、不動産売却益等により さらに増益

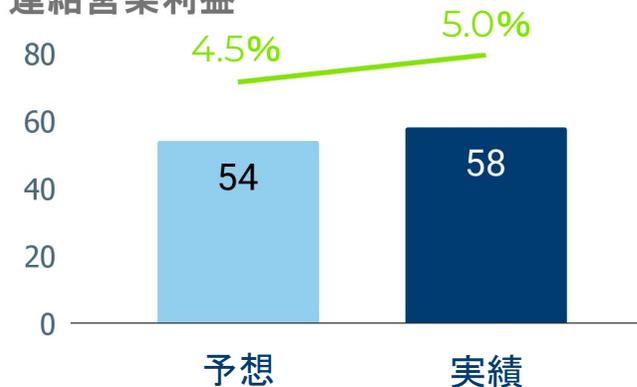
単位:億円/四捨五入

|                 | FY2025予想<br>(2025年1~12月)<br>* 2025.2.14.東証発表 | FY2025実績<br>(2025年1~12月) | 増減額<br>(対予想比) |        | 増減率     |
|-----------------|--|--------------------------|---------------|--------|---------|
| 売上高             | 1,210  | 1,171                    | ①             | ▲39    | ▲3.2%   |
| 営業利益            | 54   | 58                       | ②             | 4      | 7.7%    |
| 営業利益率           | 4.5%   | 5.0%                     | ②/①           | ▲10.6% | 0.5ポイント |
| 経常利益            | 62   | 76                       |               | 14     | 22.0%   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 39   | 62                       |               | 23     | 59.1%   |

連結売上高



連結営業利益

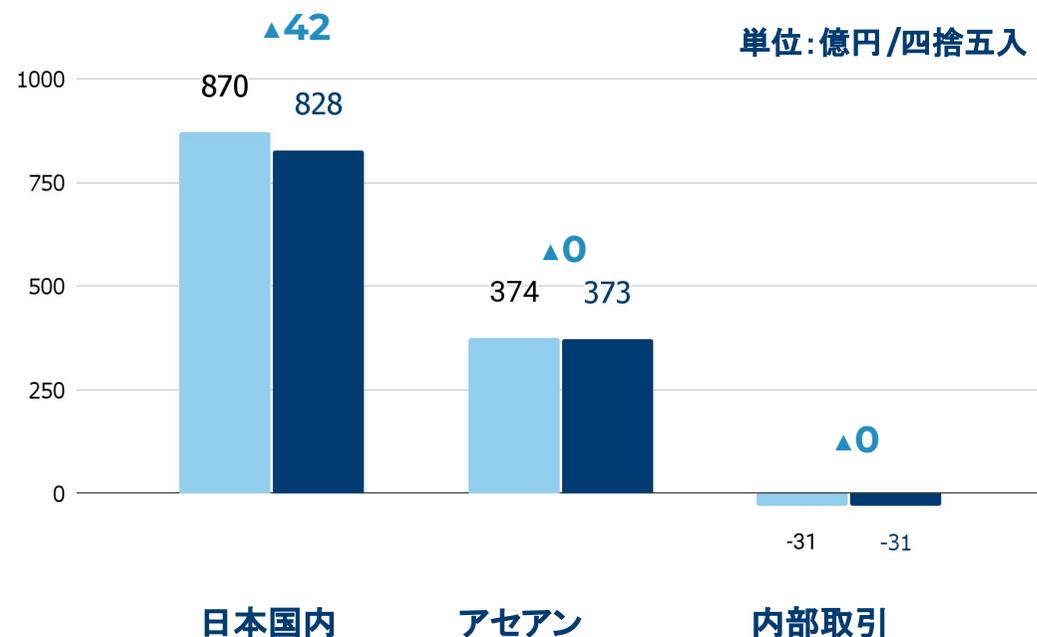


# 2025年12月期地域別業績(対前年比)ーPIAA除く

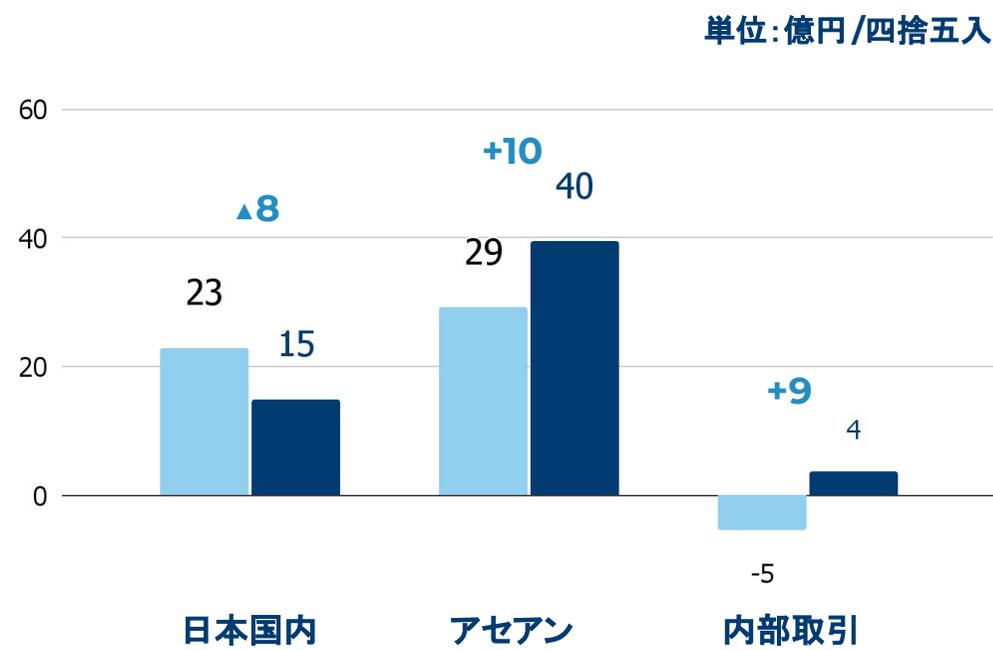
- ◆ 国内: 営業利益の減少は主に **減収** によるが、**生産性向上とコスト削減努力** により一部相殺
- ◆ 海外: **新製品立上げに伴う金型収益、インフレの価格転嫁促進、不良率の改善や生産性の向上** により増益

2024年12月期 (Light Blue)      2025年12月期 (Dark Blue)

売上高 1,213⇒1,171(前期比▲42)



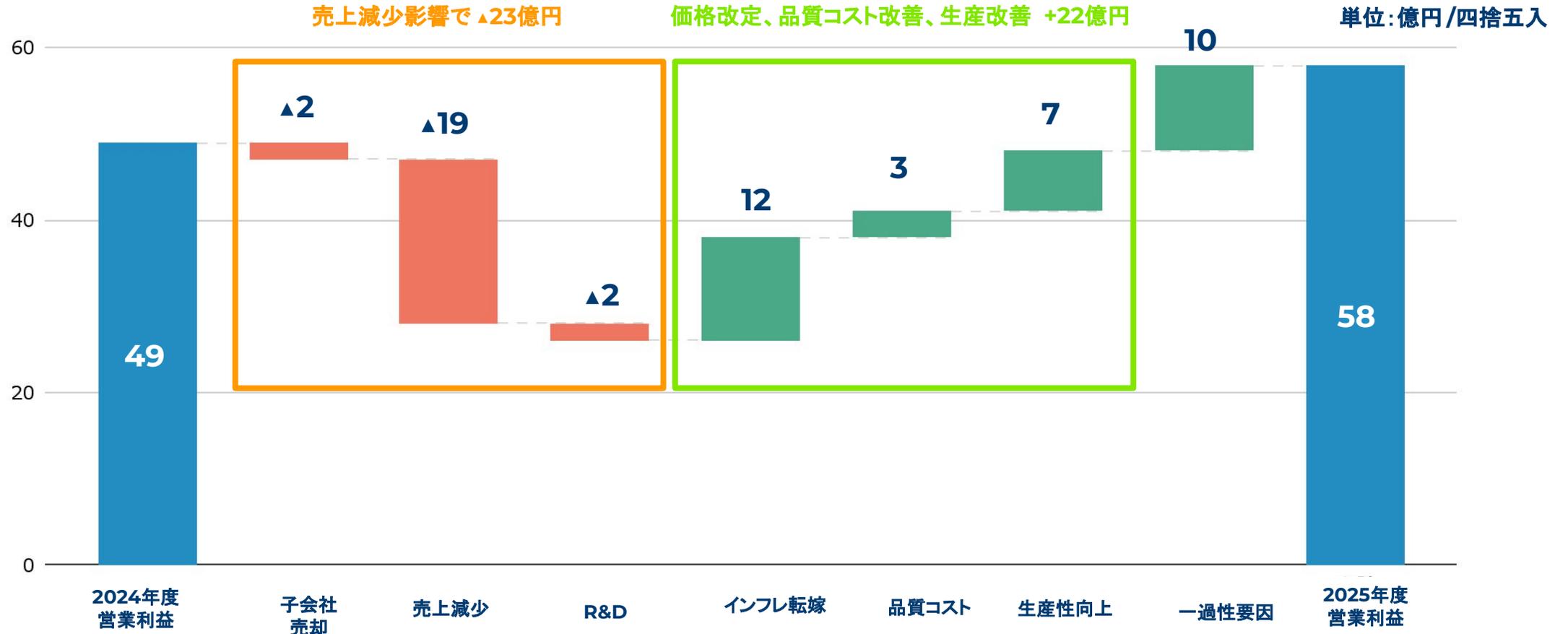
営業利益 47⇒58(前期比+11)  
営業利益率 3.9%⇒5.0%(前期比+1.1ポイント)



日本国内: 伊勢原・藤岡・本社・九州市光(営業利益のみ)、海外: インドネシア・マレーシア・タイ

# 2025年12月期 営業利益のポイント(対前年比)

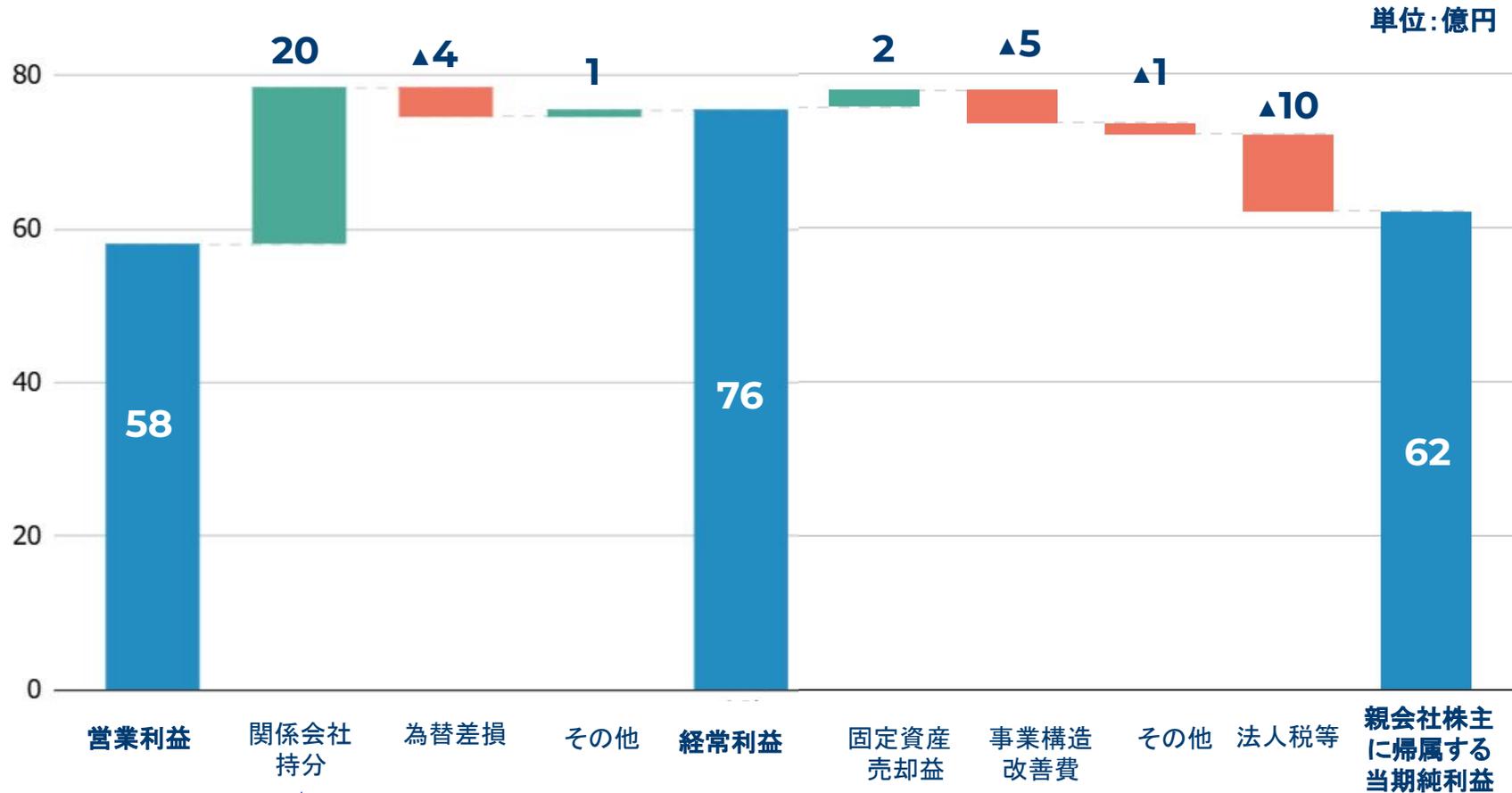
- ◆ インフレの価格転嫁促進、生産性向上、一過性要因(顧客による数量補償等) により、子会社売却による減益 や一部自動車メーカー減産による売上減少影響 を補完し増益



# 2025年12月期 業績のポイント

## 【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】

- ◆ 経常利益：Valeoとの在中國ライティング合併会社からの持分利益は 20億円を計上
- ◆ 当期純利益：不動産売却益が事業構造改善費を相殺



中国におけるヴァレオとのライティング合併会社

# 四半期 業績推移

## 売上高

単位: 億円/四捨五入



## 営業利益



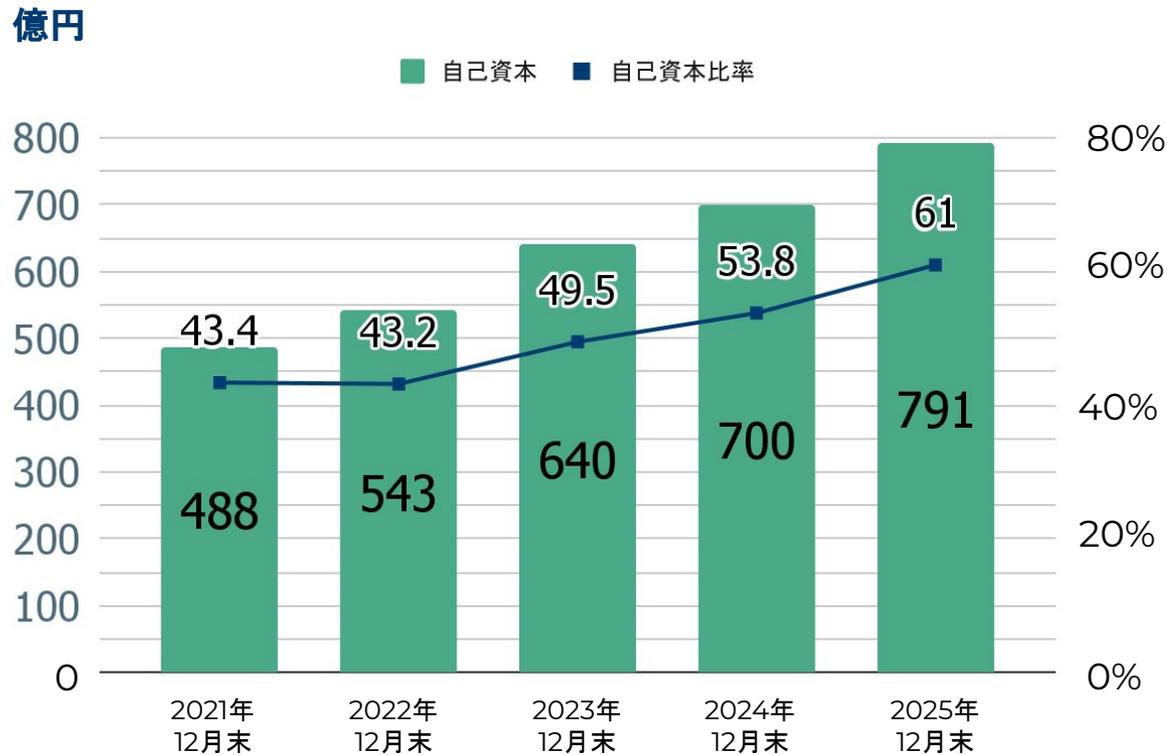
# 連結貸借対照表(前年度期末比)

単位:億円/四捨五入

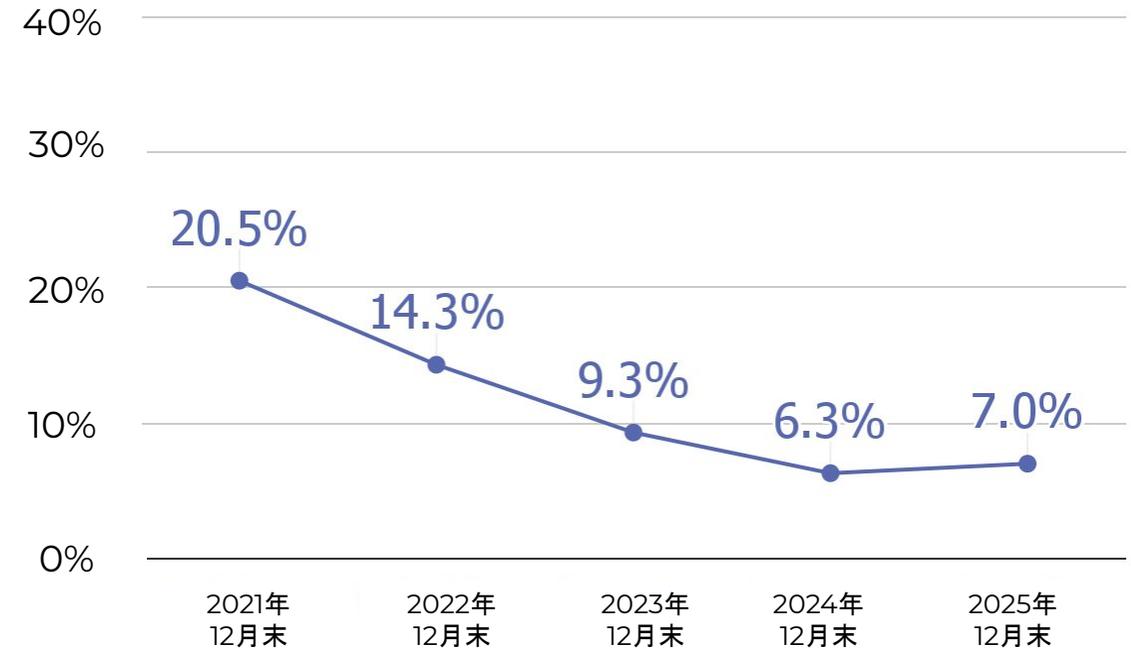
|               | 2024/12      | 2025/12      | 増減         |
|---------------|--------------|--------------|------------|
| 現金及び預金        | 126          | 124          | ▲2         |
| 売掛債権          | 166          | 126          | ▲40        |
| 棚卸資産          | 88           | 86           | ▲2         |
| 短期貸付金         | 259          | 332          | 72         |
| 有形固定資産・無形固定資産 | 385          | 378          | ▲7         |
| その他           | 276          | 251          | ▲25        |
| <b>資産の部</b>   | <b>1,301</b> | <b>1,296</b> | <b>▲4</b>  |
| 買掛債務          | 306          | 263          | ▲44        |
| 有利子負債         | 44           | 55           | 12         |
| その他の負債        | 241          | 177          | ▲64        |
| <b>負債の部</b>   | <b>591</b>   | <b>495</b>   | <b>▲96</b> |
| 株主資本          | 663          | 713          | 49         |
| その他包括利益累計額    | 37           | 79           | 41         |
| 非支配株主持分       | 9            | 10           | 1          |
| <b>純資産の部</b>  | <b>709</b>   | <b>801</b>   | <b>92</b>  |

# 自己資本比率と D/E レシオ

## 自己資本比率は 60% 超え

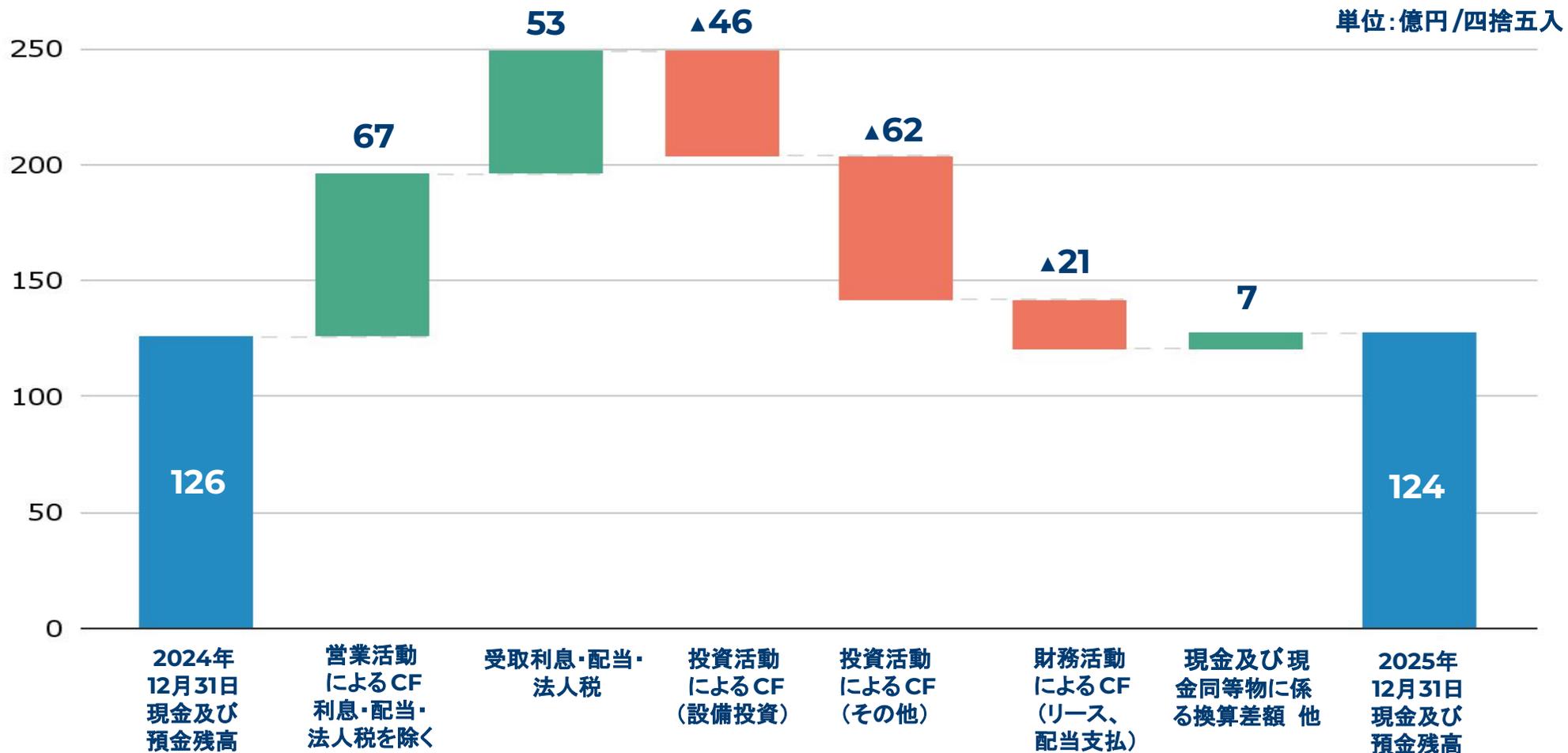


## D/E レシオはリース債務増加による影響



# 2025年12月期 連結キャッシュフロー(前年度末からの増減)

- ◆ 営業CF120億円(利息・配当・法人税含む)により、設備投資 46億円および財務活動 21億円を充当



## 02 2026年12月期業績見通し (2026年1月～12月)

# 2026年12月期 連結業績見通し

- ◆ 売上高: 一部自動車メーカーの生産減が継続する影響や、アセアン市場における生産台数の低迷懸念を想定
- ◆ 営業利益: 顧客減産補償等の減少、賃上げ影響を、生産性向上・業務効率化やアセアンにおける不良コスト低減等により補完

単位: 億円/四捨五入

|                 | FY 2025<br>(2025年1~12月) | FY 2026<br>(2026年1月~12月) | 増減額 |      | 増減率     |
|-----------------|-------------------------|--------------------------|-----|------|---------|
| 売上高             | 1,171                   | 1,180                    | ①   | 9    | 0.8%    |
| 営業利益            | 58                      | 59                       | ②   | 1    | 1.5%    |
| 営業利益率           | 5.0%                    | 5.0%                     | ②/① | 9.3% | 0.6ポイント |
| 経常利益            | 76                      | 66                       |     | ▲10  | ▲12.8%  |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 62                      | 50                       |     | ▲12  | ▲19.4%  |

連結売上高推移

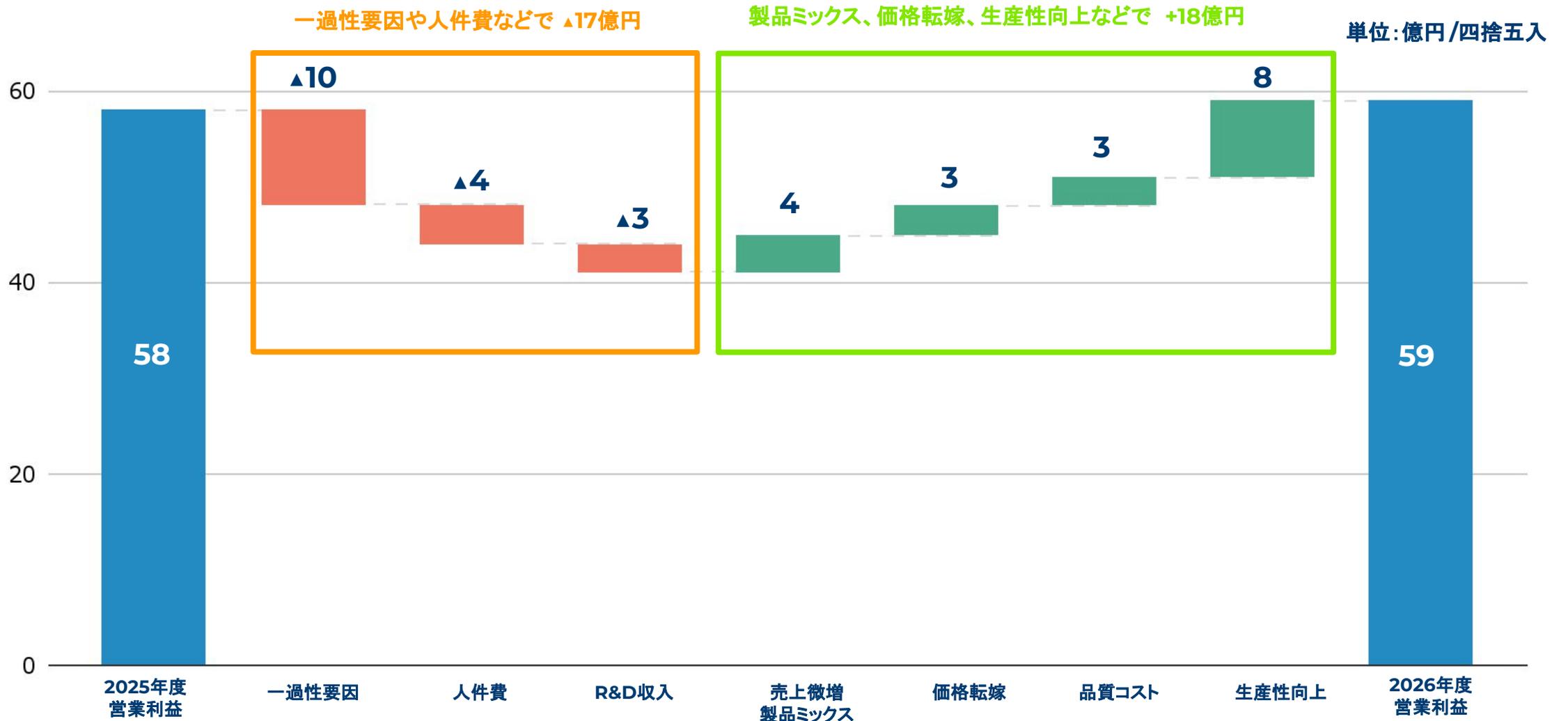


連結営業利益推移



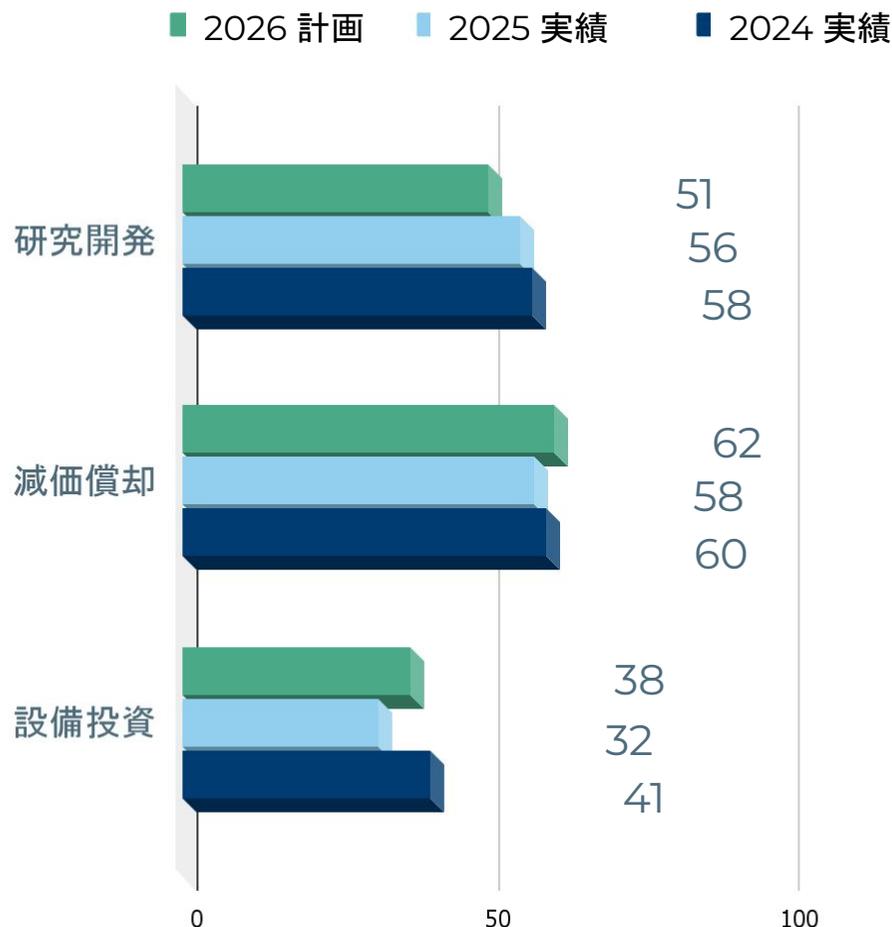
# 2026年12月期 営業利益のポイント

- ◆ 顧客減産補償の減少 や 賃上げ影響などを生産性向上、インフレによる価格転嫁、不良コスト低減 により補完



# 2026年12月期 設備投資・減価償却費・研究開発費 計画

単位：億円/四捨五入



研究開発

✓ 2025年度は、ハイエンド製品の開発強化と次世代 BEV 向け製品進化の準備のための増額はあるが、AI活用による効率化等により研究開発費は減少見込み

減価償却

✓ 新SOPおよび大型製品の生産を収容するための建物の増改築により増加

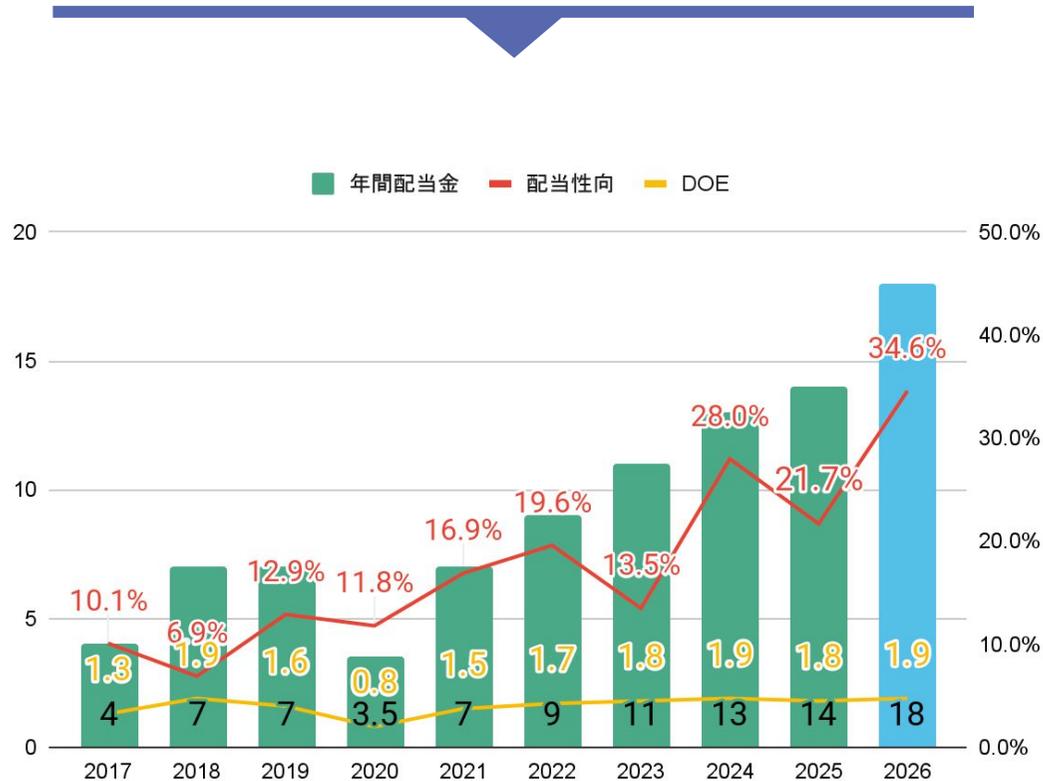
設備投資

✓ 2026年度には、日産向け事業基盤の再構築、新技術、生産性向上の投資に伴い増加見込み

※研究開発費には、試作費、PJ開発コストを含まない  
 ※減価償却費には、リース資産の減価償却費を含まない  
 ※設備投資には、リースによる投資を含まない

# 配当政策及び配当性向

配当金の推移 (単位:円 /1株当り)



## 配当性向の目標を35%以上へ引き上げ

### 基本方針

キャッシュアロケーション戦略(2025年以降4年間)

- (1) 財務健全性の確保として 170億円の手元流動性の確保
- (2) 経営基盤強化に 150億円、成長戦略に 290億円の投資
- (3) 配当性向 35%以上、DOE2.5%のいずれかを達成

### 2025年 期末配当

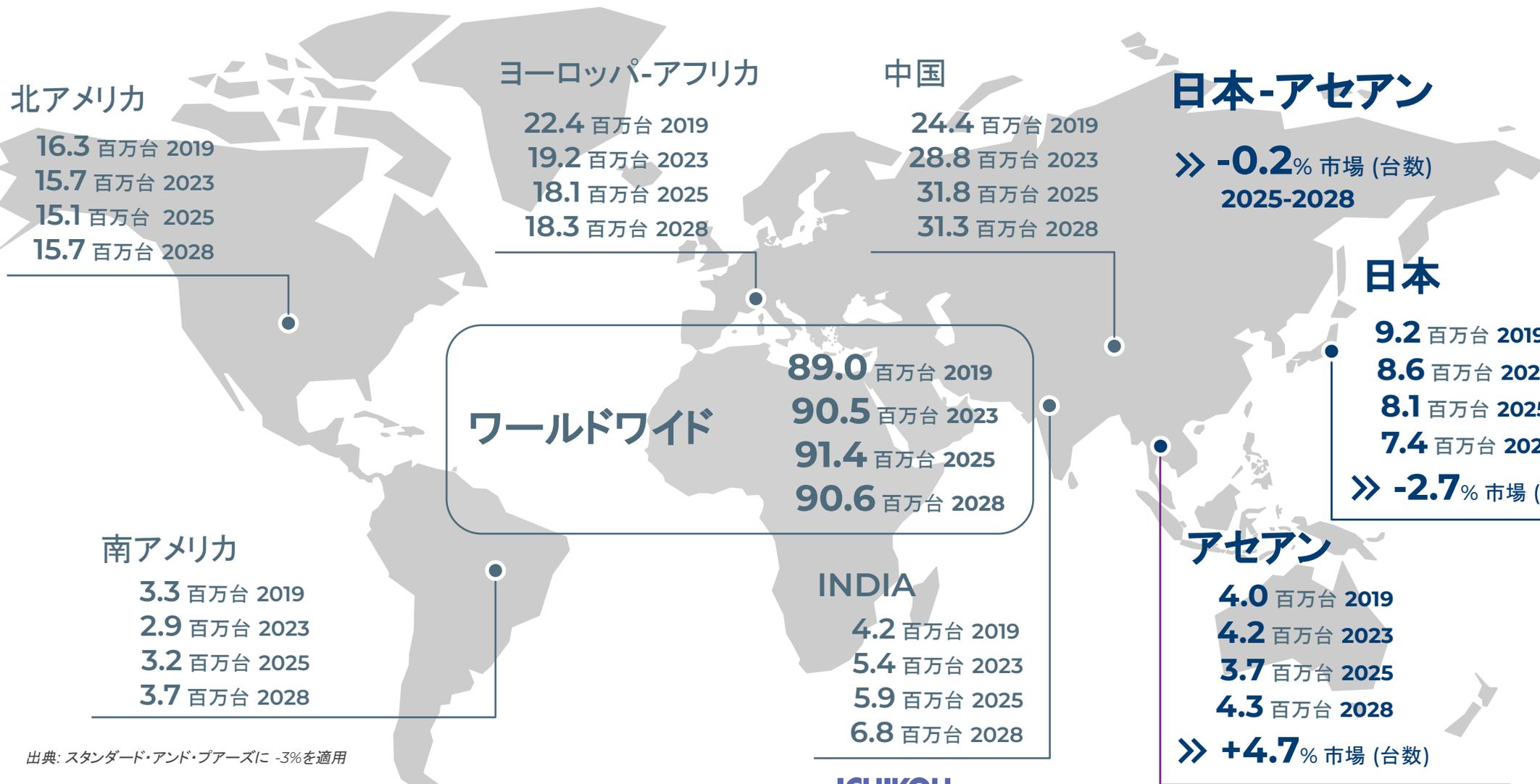
- ✓ 年間配当予定額は 14円⇒昨年度より1円増配
- ✓ 利益が想定以上のため配当性向 21.7%に留まる

### 2026年12月期 配当予想

- ✓ 配当性向は目標の 35%を考慮
- ✓ 年間配当 18円を予定⇒昨年度より4円増配

## 03 持続的な企業価値の向上に向けて

# 全世界マーケット成長 2019-2028



## 市光グループ

OEM SALES  
**5.3%**  
年平均成長率  
25-28

## 市光 日本

OEM SALES  
**6.6%**  
年平均成長率  
25-28

## 市光 アセアン

OEM SALES  
**2.4%**  
年平均成長率  
25-28

出典: スタンダード・アンド・プアーズに -3%を適用

# 2025年 実績 - 改善の年

営業利益  
増加率

**+19%** 2024年比

2025年  
**58億円 (5.0%)**



2024年  
**49億円 (3.9%)**



2025年の課題: 特定顧客  
における不安定な状況と円  
安

顧客による  
数量補償等

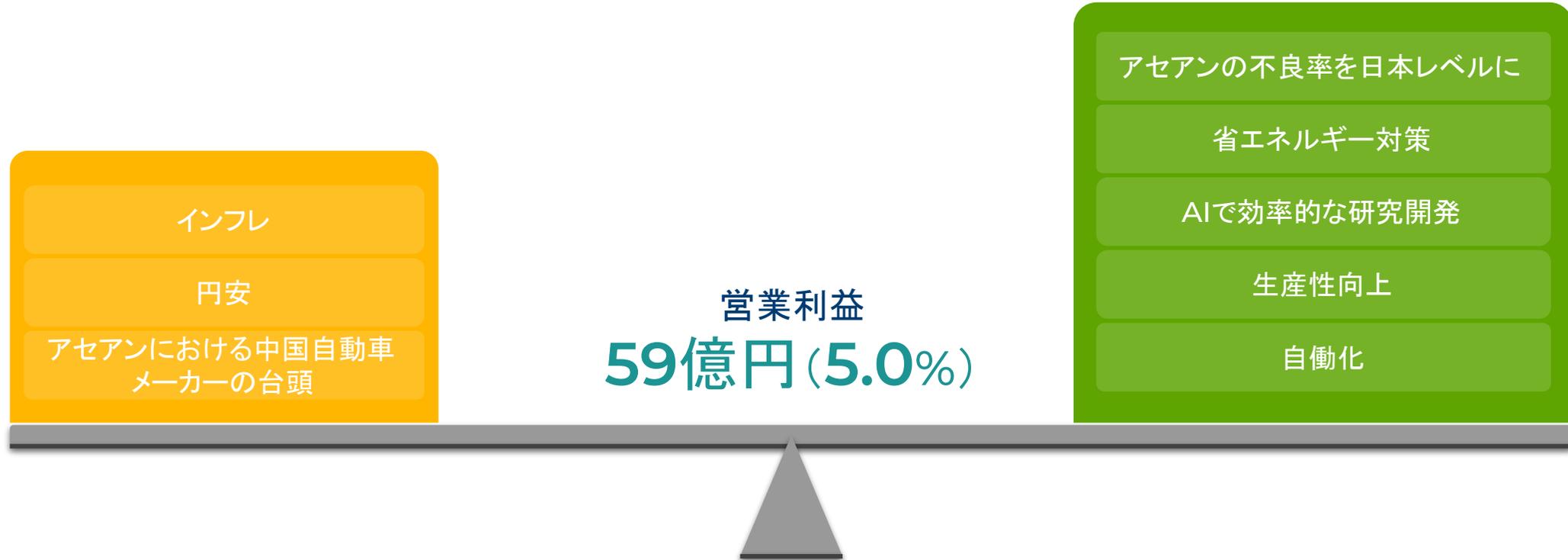
合理化努力  
(人件費の削減に  
よる損益分岐点  
の低下)

アセアンの不良コ  
スト削減

業務効率の向上  
&  
生産性の向上

一部特定顧客の厳しい経営状況、円安が続く市場環境にもかかわらず、  
市光は利益改善を実施し、さらなる成長を目指す

# 2026年 - 逆風を諸改善で克服する年！



一部特定顧客の厳しい経営状況、インフレ経済、円安が続く市場環境にもかかわらず、市光の営業利益は前年比改善した 2025年の水準を維持！

# 2027年～2030年 - 収益性を伴う成長回復

市光はテクノロジーリーダーとしての地位を確立

市光は「パッシブ照明」から「インテリジェント照明」へ

- HDライティングは2027年下半期に搭載予定
- 市光とヴァレオの共同開発による LDMを用いた新ヘッドランプは2026年度下期より段階的に搭載開始。市光はシステムプロバイダーとしての地位を確立
- センサー、カメラ、レーダー、およびコミュニケーションライティングの統合により、さらなる革新が到来



このようなテクノロジー面での進化は車両 1台あたりのコンテンツ増加につながり、より成長を牽引  
また、市光は既に日本で最も成功した車両に部品を供給しており、  
2026年に発売予定の EV分野でも確固たる地位を確保！

# 成長戦略 - トランスフォーメーション計画

## 新テリトリー #1: インド事業のスケジュール



2025年8月

合併契約締結



2026年上期予定

事業計画発表



2028年～

利益貢献



2026年3月～4月

見込

ヴァレオインドのライティング事業  
取得にむけた  
事業譲渡契約の締結

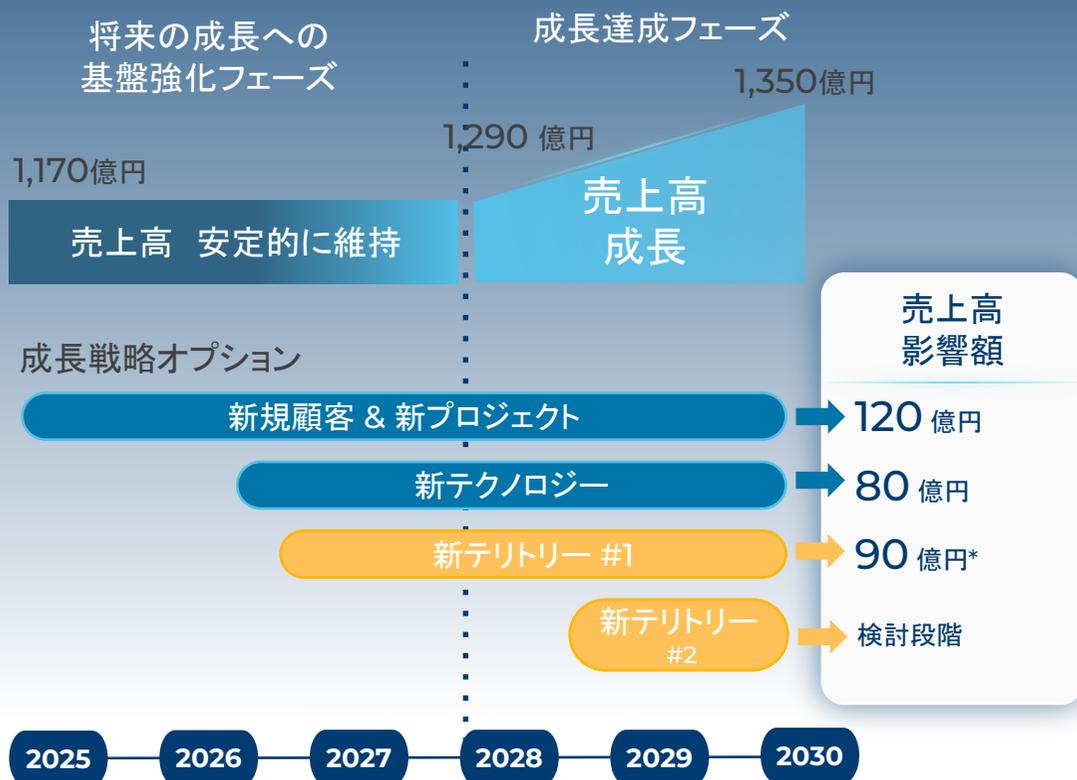


2026年8月予定

合併会社設立  
事業開始日

# 成長戦略 - トランスフォーメーション計画

## 成長の回復に向けて ...



\*2028年の売上目標1,290億円  
には含まず

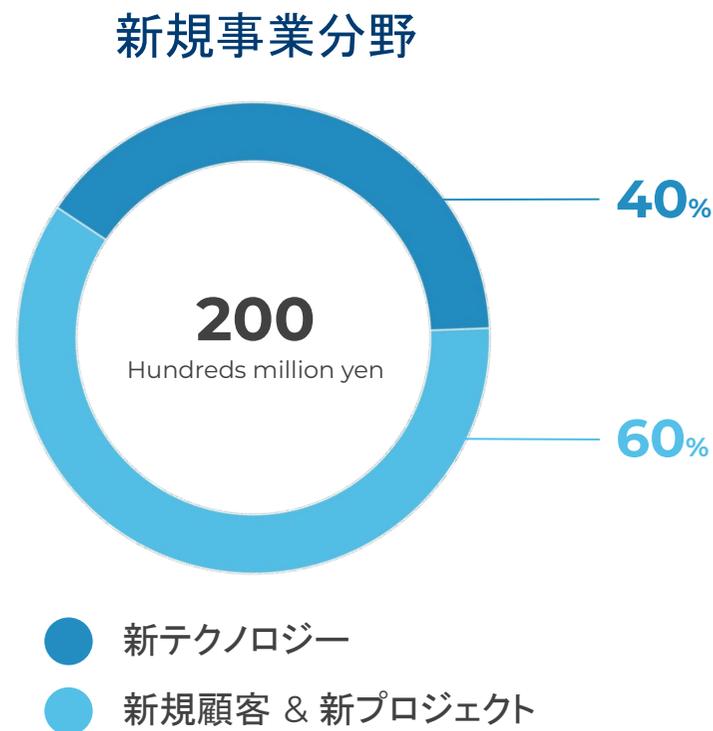
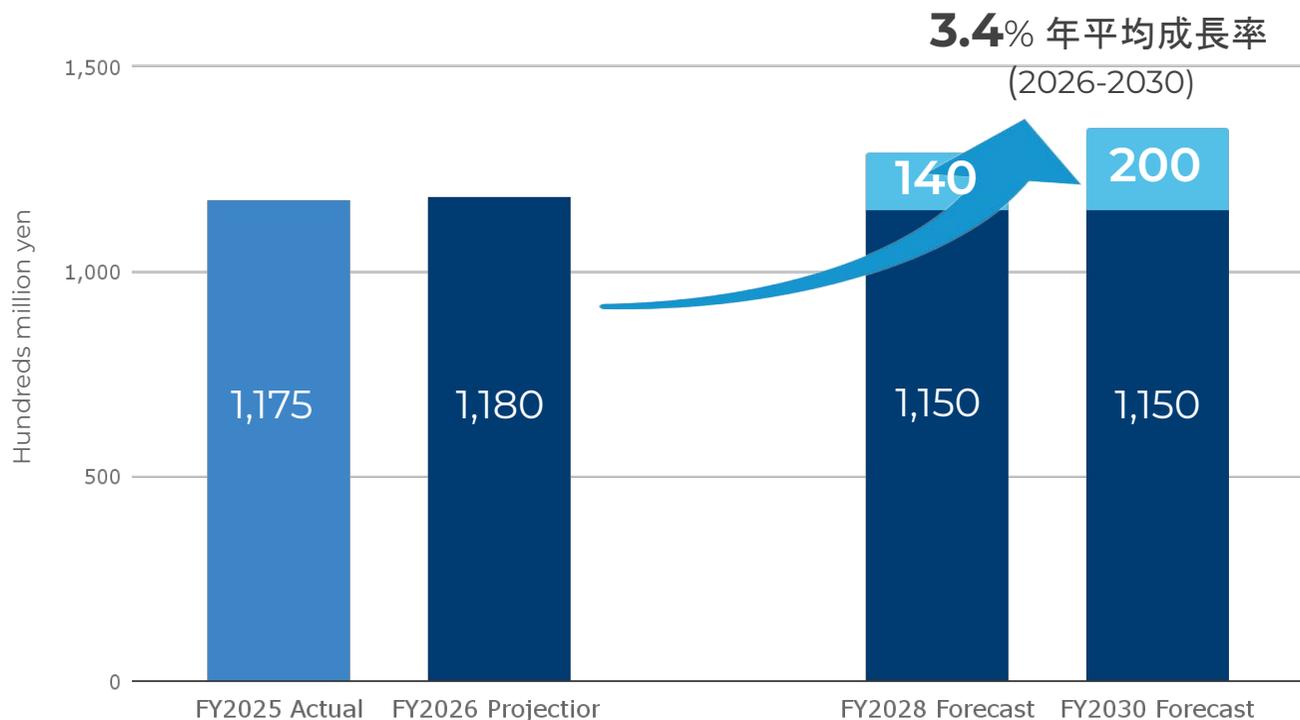
## 現状の立ち位置 ...

### 進捗状況:

- ➔ **新規顧客 & 新プロジェクト:**  
2028年に向けて90億円の契約をFord、Hyundaiと締結
- ➔ **新テクノロジー:**  
2028年に向けてHDライティングおよびドライバで50億円確定済み
- ➔ **新テリトリー #1:**  
事業譲渡契約がまもなく調印され、2026年第3四半期における合併事業活動の開始を目指す

## 中期経営計画の概要 - インド事業は含まず

EV市場の先行き不透明感、特定OEM顧客の事業再構築、アセアン地域におけるC-OEM顧客の積極的な進出といった課題に自動車業界が継続して直面する厳しい経営環境下、市光は成長を実現するために新規事業分野へ展開



売上高

1,175

1,180

1,290

1,350

営業利益率

5.0%

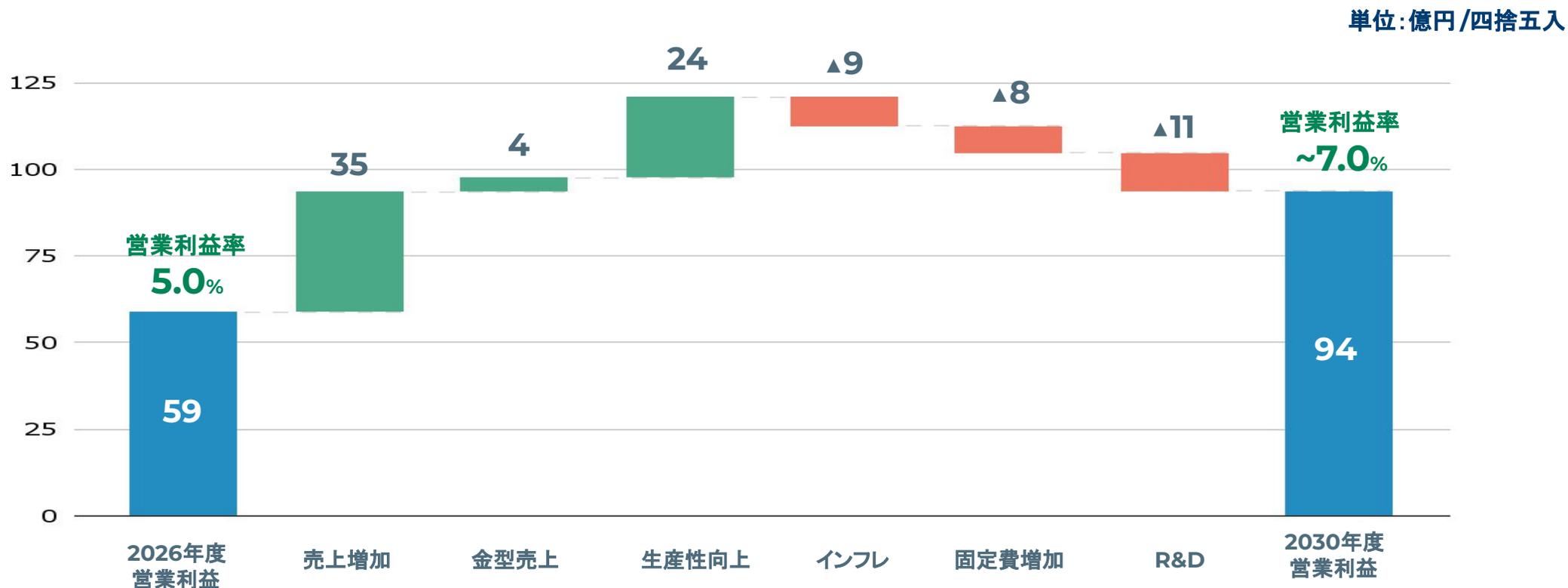
5.0%

~6.0%

~7.0%

# 中期の見通し: 営業利益のポイント( 2026年度 vs 2030年度)

- ◆ 利益成長と生産性向上により、インフレ、顧客への価格低下、固定費増加、R&D費用増加を補完し、収益性の向上を達成



# 株主と社会に貢献する企業



ダイナミックな中国市場における合併事業からのさらなる持分法利益貢献

中国における新規受注の3分の2以上が中国自動車メーカー向けである



継続的な増配政策による株主還元

2026年目標として、5年連続の配当増加と35%の配当性向を設定



ESGにおける優れた実績



2019年比で水使用量が89%削減



スコープ1およびスコープ2のCO2排出量を2019年比で30%削減

当社には企業価値をさらに向上させるための手段あり

## そして、価値創造を通じてさらに貢献するための計画 ...

### 潤沢な流動性を有するため、市光はさらなる価値創造の可能性を秘めている



垂直統合の機会を模索中(PCBA向けSMTなど)



革新的テクノロジー・製品への投資



インドにおける急速な事業拡大



キャッシュアロケーション戦略

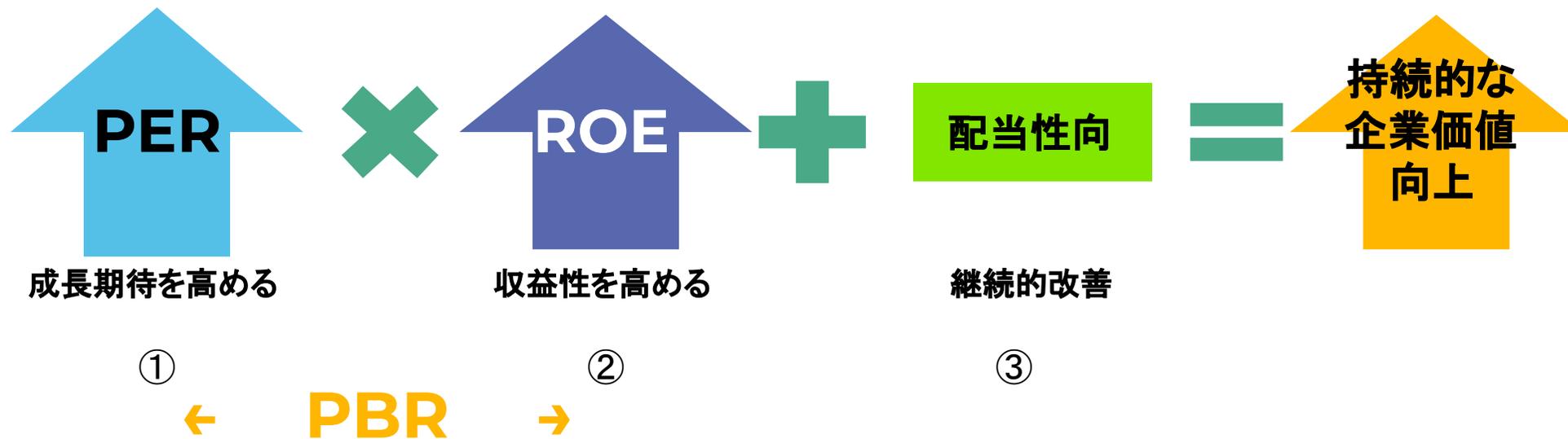
1) 財務健全性の確保 2) 経営基盤強化 3) 成長戦略

**2025-2026年度の利益改善は計画の第一段階**

## 04 PBRに関して

# 企業価値向上に向けての施策

持続的な企業価値向上を目指し、**PBR(1倍超目標)**、配当性向の向上を図る



| 指標   | 2025年末実績 | 2028年見込み | 2030年目標 |
|------|----------|----------|---------|
| PER  | 8.0倍     | 11.0倍    | 12.0倍   |
| ROE  | 8.3%     | 8.7%     | 10.0%   |
| 配当性向 | 21.7%    | 35%      | 35% <   |
| PBR  | 0.7      | 1.0      | 1.2     |

## 予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、市光工業株式会社(以下、当社)が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は当社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

**ICHIKOH**  
a Valeo company